

このごろ通信

かなまる 金丸

ひろみ 弘美さん

(フリーライター・エディター)

殺鼠剤を食べても400日を超えて生き続けるクマネズミ。薬では死ななくなったスーパーマットはビルを走り回るだけではなく、ここ2、3年住宅地でも急増している。この恐るべき『都市の野獣』についてレポートした『スーパーマット』(徳間書店)を刊行した。

駆除会社に同行して真夜中の渋谷のビルに潜入。粘着シートを仕掛けて3時間で39匹のネズミが捕獲され、次々に生ゴミとして袋に投げ入れられる。新宿ではビル1棟に500匹は住んでいると専門家が証言する。「ショッピングビルで食事や買い物をしなくなりましたね。レストランに入っても、メニューより厨房や横の溝の汚れが気になってしまった」

『都市の野獣』の生態解明

なりました。古い木造モルタル住宅が密集している町で、あらゆる家で猫を飼っているのを見て驚いたことあります」駆除費用が一般家庭には高価で業者にとっても民家の仕事は利益が少ないため、住宅地での現況把握が遅れてしまった。

「行政も横の連絡がなく、やっと情報交換が始まるなど動き出したところです。ただ駆除は抜本的な対策ではありません。都市が生み出したネズミが住みやすい環境を変えていかなければ解決できない」



の笛吹き』の話とあまりに状況がそっくりだと気がついて仰天しています。ネズミが増えるのは、自分が悪いのではなく隣が

自然破壊でネズミの天敵が消えた。古い建物が壊されると、そこを住まいとしていたネズミは、近くの民家に移っていく。「この本が出版されてから、『布団の中に入って来た』『ベランダの球根が食べられた』という話を頻繁に耳にするように

ゴミを出すから……などと平気で責任を転嫁する大人のエゴイズムそのものの考え。ネズミの方が『このまま経済成長を続けていいのか?』『ライフスタイルを変える気があるのか?』と私たちに関心かけてくれているのではないだろうか」

【桐山 正寿】